2015 年 12 月

前立腺癌について

前立腺癌は、米国では男性の癌の中で患者数がトップです。皆さんは、日本でも生活の欧米化に伴って前立腺癌が増えていることをよく耳にされると思います。

前立腺は、膀胱（ぼうこう）の出口のところに尿道を取り囲むようにして存在する 20 グラムくらいの臓器で、精液の一部を産生しています。この前立腺に癌が出来ると前立腺癌となります。前立腺癌と前立腺肥大症は別の病気で、前立腺肥大症が進行すると前立腺癌になるといったものではありません。前立腺肥大症の方に前立腺癌が発症することもあります。

前立腺癌の症状ですが、早期の前立腺癌は前立腺癌そのものによる症状はなく、無症状と言って良いでしょう。しかし癌が大きくなって膀胱の出口をふさぐと、前立腺肥大症のようにおしっこが出にくくなったり、癌が骨に転移すると、転移した場所に痛みが出てきたりします。つまり、前立腺癌は、前立腺癌による症状が出たときには進行がんになっているということです。

スクリーニング検査に PSA（前立腺抗原）というものがあり、採血をすると PSA の値がわかります。基準値は 4 ng/ml 未満とされ、4 ng/ml 以上が異常値すなわち「癌の可能性あり」となります。PSA は前立腺癌に特異的ですので、他の癌で上昇することはありません。一方、PSA は前立腺肥大症や前立腺炎でも上昇することがありますので、まずは泌尿器科医の診察を受けることが必要です。PSA 検査は前立腺癌の早期発見のために重要な検査です。

PSA が基準値を超えた場合は、超音波検査や MRI 検査を行い、癌の病巣の存在が疑われるときは組織検査をします。すなわち針を前立腺に刺して、前立腺の組織を一部採取して、その中に癌細胞がないかどうかを調べるのです。不幸にして、前立腺癌が見つかった場合、転移がないかどうかを調べます。

癌が前立腺の中だけにある早期のものと、転移している進行がんでは治療法が全く違います。早期のものでは、手術で前立腺を摘出する治療や、放射線を当てる治療があります。手術にも、従来の開腹手術、腹腔鏡手術、ロボット支援手術などいろいろな方法があります。健康保険はききませんが、粒子線をあてる治療もあります。このような治療法で完全に治すことを目指します。

一方、癌が体のあちこちに広がった転移癌の場合は、基本的に抗男性ホルモン療法です。睾丸が男性ホルモンを作らないようにする注射や、男性ホルモンの作用を抑える飲み薬を使います。これらの薬は女性ホルモンではありません。男性ホルモンを抑える薬です。抗男性ホルモン療法では、癌を取り除き完全に消し去ることは出来ませんが、癌の勢いを抑えたり、一時的に小さくしたりすることは出来ます。小さくなった癌が進行せずに長い期間持つ場合もありますが、比較的早い時期にぶり返す（再燃する）こともあります。

最初の抗男性ホルモン療法が効かなくなると、抗男性ホルモン剤のお薬を変えたり、抗がん剤を使ったりします。骨に転移した際の痛みを止めたり、骨に転移した癌の進行を抑えたりする点滴もあります。

それではどのような人が前立腺癌に罹りやすいのでしょうか？前立腺癌の予防法はあるのでしょうか？親や兄弟に前立腺癌にかかった人がいる場合は、そうでない場合より前立腺癌にかかるリスクが高くなります。予防法と言って良いかどうかわかりませんが、脂肪分の多い食事を取っている人はそうでない人より前立腺癌にかかりやすいといわれています。イソフラボン、リコペン、カテキン（豆やトマトやお茶です）が発症を抑制するかもしれないといわれています。しかし若い頃から心がけないといけないでしょう。大雑把に言えば和食が良いということになります。

大切なことは、早期に癌を見つけ、完全に治すことを目指した治療を行うことです。また、不幸にして転移している進行がんが見つかった場合も、根気良く治療を続けることだと思います。そして何よりも、50 歳を越えたら一度 PSA 検査を受けることをお勧めいたします。

（川嶋秀紀）

第 28 回日本泌尿器内視鏡学会